

6 3 6 1 - 8 1 2
平成18年10月24日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成18年度病害虫発生予察注意報第7号について
平成18年度病害虫発生予察注意報第7号を発表したので送付します。

平成18年度病害虫発生予察注意報第7号

平成18年10月24日
宮 崎 県

病害虫名 タバココナジラミ類
(タバココナジラミ バイオタイプQ、シルバーリーフコナジラミ)

作物名 冬春トマト(大玉・中玉・ミニ)

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 -

3 発生量 やや多

4 注意報の根拠

- 1) 10月中旬の巡回調査におけるタバココナジラミ類(タバココナジラミ バイオタイプQ・シルバーリーフコナジラミ)の発生面積率60.0%(平成19.8% 前年50.0%)は平成より多、百葉当たり虫数2.4頭(平成0.9頭 前年3.3頭)は平成よりやや多である。
- 2) 本害虫は県内で問題となっているトマト黄化葉巻病の媒介虫であるため、注意が必要である。
- 3) ほ場での発生が多くなると、すす病により果実の汚れや品質低下の原因となる。
- 4) 向う1ヶ月の天候は、気温は平成より高いと予想されており、媒介虫の活動・増殖に好適な条件は続くと考えられる。

(鹿児島地方気象台 10月20日発表)

5 防除上の注意

- 1) 本虫の侵入を防止するため、施設開口部には必ず目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置する。また、作業者の出入りにより侵入することがあるので注意し、コナジラミ類を誘引する黄色の服の着用はできるだけ控えるようにする。
- 2) 葉裏に寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布を行う。
- 3) 施設内には黄色粘着板(100枚以上/10a)を設置し密度の低下を図るとともに、粘着板に誘殺が確認された場合は、すぐに殺虫剤の散布を行い徹底的に駆除する。
- 4) 両種の肉眼での識別は困難であるが、タバココナジラミバイオタイプQについては、いくつかの薬剤の効力低下が確認されているので、薬剤散布後の効果には注意を払い、効力が劣る場合には追加の防除を行う。
また、薬剤抵抗性の発達を防止する観点から、同系統の薬剤を連用しないようにする。
- 5) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 米良
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp